



2017年度全日本学生ヨット個人選手権大会 2017年全日本学生シングルハンドレガッタ

2017.8.11 - 8.14 in TOYOTA INDUSTRIES KAIYO - Y.H



2017年度 全日本学生ヨット個人選手権大会

2017年 全日本学生シングルハンドレガッタ

- 開催地 : 愛知県蒲郡市 豊田自動織機海陽ヨットハーバー沖
- 大会期間 : 平成29年8月11日(金)～平成29年8月14日(月)
- 共同主催 : 全日本学生ヨット連盟、 中部学生ヨット連盟
- 公認 : 公益財団法人 日本セーリング連盟 [承認番号 H29-05]
- 後援 : 蒲郡市 蒲郡市教育委員会 蒲郡市体育協会
中部ヨット協会 愛知県ヨット連盟
日本470協会 日本スナイプ協会 日本レーザークラス協会
- 特別協賛 : 日建レンタコムグループ
- 協賛 : 明治商工株式会社 株式会社伊藤園 蒲郡市観光協会
- 協力 : 豊田自動織機海陽ヨットハーバー 蒲郡三谷温泉平野屋

-目次-

大会御挨拶	3
大会役員	11
競技役員	12
レース公示	13
帆走指示書	21
国際470クラスエントリー表	30
国際スナイプクラスエントリー表	33
シングルハンドレガッタエントリー表	36
MEMO	38
歴代優勝者	39

ご挨拶



公益財団法人日本セーリング連盟
会長 河野 博文

2017年度全日本学生ヨット個人選手権大会ならびに2017年全日本学生シングルハンドレガッタが、豊田自動織機 海陽ヨットハーバーで開催されることをお慶び申し上げます。

蒲郡市、蒲郡市教育委員会、蒲郡市体育協会はじめ多くの皆様のご後援、御協力をいただきましたことを感謝申し上げます。また特別協賛をいただいた日建リース工業株式会社、日建レンタコム株式会社、日建片桐リース株式会社はじめご協賛各社、各団体には心からお礼申し上げます。

セーリング競技は、体力だけでなく、経験と知的能力が大きな要素となるスポーツであり、過去のこの大会の参加選手からも、世界でも活躍する選手を輩出しています。皆さんも是非世界へ羽ばたいていていただきたいと思います。また、社会にでても、これまでセーリングを通して培った経験と知識を生かして、様々な場で活躍していただきたいと思います。

日本のセーリング界も、2020年東京オリンピックに向けて大車輪で強化と準備に取り組んでいます。本大会が開催される蒲郡の海面は、今年10月には日本で初めて開催されるWorld Sailingのセーリングワールドカップ（SWC）シリーズ初戦の蒲郡大会も開催されます。

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けては、スポーツの素晴らしさ、感動と勇気を日本の多くの人々に伝えたいと願っています。特に、オリンピックに向けて、世界に挑戦する高いレベルの選手達が日本で開催される様々なセーリングの国際大会で活躍することにより、セーリング・スポーツが広く国民の皆さんへ普及することにもつながるものと信じております。

今回の大会に参加される選手の皆さんも、是非2020年には選手として、或いは運営スタッフの一員として、東京オリンピックに参加していただきたいと思います。

また、各大学の関係者の皆様には、インカレのみならず国際大会への選手派遣にも一層熱心に取り組んでいただきたいと思います。

終わりに、この大会が好天に恵まれ、安全に運営され、参加選手が存分に活躍されますことを祈念して、私のご挨拶といたします。

歓迎のことば



愛知県ヨット連盟
会長 豊田 鐵郎

「2017年度全日本学生ヨット個人選手権大会」が、愛知県蒲郡市の「豊田自動織機海陽ヨットハーバー」において開催されるにあたり、愛知県ヨット連盟を代表し、全国各地からお集まりいただき選手、監督ならびに大会関係者の皆様を心から歓迎申し上げます。

三河湾の美しい海、豊かな自然に囲まれ、セーリングに最適な風が吹く蒲郡は、日本初のセーリングワールドカップが10月に開催されるなど、セーリング・スポーツの一大拠点であり、この地で大会が開催されることは、愛知県におけるセーリング競技の普及、振興にも寄与する、たいへん意義深いものです。さらには、皆様がその実力を競いあうことは、2020年の東京オリンピックに向けて、日本のセーリング界をますます活気づけていただくことにつながります。皆様が、日ごろの練習の成果を存分に発揮され、本大会が今シーズンの素晴らしいレースの一つとして記憶されるよう、また、そうした切磋琢磨の中から、これからの日本セーリング界を牽引されることを、大いに期待しております。

この蒲郡の歴史や文化、人々に接していただきながら、全国から集まった皆様の交流がさらに深まり、本大会が思い出深い、すばらしいものとなりますよう、心からお祈り申し上げます。

本大会開催にあたり、ご尽力いただきました関係の皆様へ深く敬意を表するとともに、本大会の成功を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。

歓迎のごあいさつ



蒲郡市長
稲葉 正吉

「2017 年度 全日本学生ヨット個人選手権大会」が、ここ蒲郡市の豊田自動織機海陽ヨットハーバーを会場として開催され、全国各地から多数の選手、役員の皆様をはじめとする関係者をお迎えできますことは誠に喜ばしく、地元市長として心から歓迎申し上げます。

蒲郡市は、本州中部に位置し、温暖な気候と美しい風景に恵まれた三河湾国立公園の中心にあり、鉄道唱歌にも「海のながめは蒲郡」とうたわれた観光地であります。私自身も学生時代ヨット競技に打ち込んでおりましたので、海に対する思い入れはとても強く、皆様方のように海を愛する人たちが、本市の海で白熱したハイレベルなレースを展開していただけることを大変喜ばしく思っております。

本市はヨット競技と馴染みが深く、世界一周を果たした「エリカ号」の蒲郡帰港を記念して始まった「エリカカップ」をはじめ、国体や中部地区における数多くのヨットレースの会場となるなど、まさにヨット競技の中心地となっております。

特に今年は、10月15日から22日までの8日間にわたり、日本初となる「セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会」が、ここ蒲郡を会場として開催されます。この機会にセーリング競技の魅力を全国に発信しつつ、「海のまち・蒲郡」を全世界に向けて発信していただけることを喜んでおります。

選手の皆様には、日頃鍛えた力と技、練習の成果をこの三河湾を舞台に存分に発揮していただき、素晴らしいレースを展開してくれることを期待しております。そして、皆様方には将来日本代表選手として、日本セーリング界を牽引していただきますことを大いに期待しております。

最後になりましたが、本大会開催にご尽力いただきました関係者の皆様方に心から感謝申し上げますとともに、大会のご成功とヨット競技のますますのご隆盛を祈念申し上げまして、私の歓迎のご挨拶にかえさせていただきます。

会長挨拶



全日本学生ヨット連盟
会長 片山 直也

2017年度全日本学生ヨット個人選手権大会および2017年全日本学生シングルハンドレガッタが、セーリングの聖地ともいわれている愛知県蒲郡市の豊田自動織機海陽ヨットハーバーにおいて、盛大に開催されることとなりました。

特に今年は、2020年のオリンピックに向けて、セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会の開催が予定されており、ワールドクラスの強豪が集うこととなるここ蒲郡で、全日本学生ヨット個人選手権を開催することの意義は極めて大きいと考えています。

本大会の開催に向けては、共催の中部学生ヨット連盟をはじめ、特別協賛の日建・レンタコムグループ、後援の蒲郡市・中部ヨット協会・愛知県ヨット連盟等、多数の関係団体・関係者の皆様にご協力・ご支援を頂戴しています。全日本学生ヨット連盟を代表して、心より感謝申し上げる次第です。

全日本個人戦は、470級およびスナイプ級については、全国各水域での厳しい予選を勝ち抜いてきた全国の学生トップセーラーが、レーザー級については、各水域の学生ヨット連盟の推薦を受けた将来を期待されるセーラーが集います。

選手諸君は、日頃、各大学ヨット部において、監督・コーチの指導の下、合宿所で寝食を共にし、切磋琢磨しながら、懸命に練習に励んできたことでしょう。大学ヨット部そして各水域を代表するセーラーとして、サポートのヨット部員とともに、全日本個人選手権という晴れの舞台で、日頃の真剣な練習の成果を遺憾なく発揮して欲しいと思います。

また、2020年のオリンピックに向けて、本大会に出場する学生諸君は、ヨット界だけではなく、広くスポーツ関係者、大学関係者、そして何よりも地域住民の方々から注目される存在です。大学生セーラーとしての最高レベルのレースが期待されているだけでなく、アスリートとして、かつ学生として、文字通り全国の大学を代表する模範となることが求められています。

皆さんの周りを思いやる礼儀正しい振る舞いと清々しい笑顔で、長く語り継がれる思い出に残る大会となることを願ってやみません。

最後となりましたが、改めまして、今大会を運営してくださる中部学生ヨット連盟の役員の皆様、学生諸君、後援・協賛・協力をいただいている諸団体・関係者の皆様に、連盟を代表して御礼申し上げます。

2020年の東京オリンピックに夢をつなげる大会となることを祈念しています。

ご挨拶



全日本学生ヨット連盟
副会長 古川 裕之

みなさま、ようこそ蒲郡の豊田自動織機海陽ヨットハーバーへ。開催地選出の副会長として、一言ご挨拶申し上げます。

ここ豊田自動織機海陽ヨットハーバーは、風に恵まれ波があまりたたず、アンカーもよく利きハーバーを出ればすぐにレース海面が取れるという点で、ディンギーレースをするには大変恵まれた環境であると言えます。その素晴らしい環境が評価され、今年3月、日本オリンピック委員会より「セーリング競技強化センター」に指定されました。セーリング競技強化センターとは、オリンピック強化指定選手等のトップアスリートが強化活動で有効に利用できる施設であり、2016年のリオデジャネイロオリンピック終了まで国内のトップセーラーが精力的に活動する舞台となります。

この大会に出場する選手のみなさんは、各水域での厳しい予選を勝ち上がってきた精鋭です。団体戦ではチームの勝利のために我慢することもあるかと思いますが、本大会は個人戦ですので、思う存分に自分の力を発揮していただきたいと思います。また、この大会からオリンピック選手が生まれることを心より期待しております。

レースの勝ち負けも重要ですが、他の選手や運営に携わる多くの方々との交流を通じて、人格的に成長したと自覚できる体験を持つことも同じくらい重要です。多くの交流を通じて、素晴らしい人と出会うこと、そして相手からも素晴らしい人だと思われること、そういう体験を本大会で経験することができれば、それはみなさんにとって一生の財産となるでしょう。

最後に、本大会の開催にあたっては、愛知県ヨット連盟の皆様、大会役員の皆様、蒲郡市の方々、豊田自動織機海陽ヨットハーバーの皆様には大変お世話になっており、深く感謝申し上げます。また、身内のことではございますが、中部学生ヨット連盟の役員、学生諸君には大会の準備や運営で多大の貢献をいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

歓迎のことば



中部学生ヨット連盟
会長 石倉 俊宏

「2017年度全日本学生ヨット個人選手権大会」「2017年全日本学生シングルハンドレガッタ」が、愛知県蒲郡市の「豊田自動織機海陽ヨットハーバー」において開催されるにあたり、中部学生ヨット連盟を代表し、選手、監督ならびに大会関係者の皆様を心から歓迎申し上げます。

三河湾は、セーリング・スポーツに適した環境にあり、本大会が開催されます豊田自動織機海陽ヨットハーバーは、全日本学生ヨット個人選手権大会をはじめ、国体など数々の大会を開催しており、今年度はテザーワールドや日本初のセーリングワールドカップが開催されるハーバーでもあります。また、大規模な設備改修もされ今まで以上に素晴らしいハーバーになりつつあります。

このような素晴らしい環境に負けないよう、中部学生ヨット連盟役員一同、周到に準備を進めてまいりました。皆様には、これまでの成果が十分発揮できるよう日ごろの練習の成果を存分に発揮され、是非学生ヨット個人日本一の称号を手にしていただければと思っています。

セーリング競技は、2020年のオリンピックなど、これからますます注目されるスポーツになると思います。皆様がこの中心となり日本セーリング界の牽引役となることを期待しております

本大会開催にあたり、ご協賛、ご協力いただきました企業、団体の皆様をはじめ役員の皆様へ深く感謝するとともに、本大会の成功を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。

全日本学生ヨット連盟 委員長挨拶



全日本学生ヨット連盟
委員長 岩井 俊樹

この度、全日本学生ヨット個人選手権が一年ぶりに愛知県海陽ヨットハーバーにおいて開催される運びとなりましたことを、心からお慶び申し上げます。

さて今年度より全日本学生ヨット個人選手権大会の出場枠が 47 枠から 53 枠に増えたことにより、一部水域において出場枠が増えました。それにより、今まで惜しくも出場できなかった選手もこの蒲郡の地を踏めることになったかと思えます。ただ、全日本個人選手権に出場することを目標とするのではなく、ぜひ優勝もしくは入賞を狙ってください。今大会出場選手は各水域の代表であり、各大学の代表でもあります。惜しくも何らかの理由で出場できなかった選手もたくさんいるということを感じ、正々堂々とレースに挑んでください。そのために我々学生連盟は最高の思い出に残るレースを提供します。

今大会を運営してくださるのは中部学生ヨット連盟の役員皆様、学生、また特別協賛の日建・レンタコムグループ、後援の蒲郡市・中部ヨット協会・愛知県ヨット連盟等の関係団体の方々の力をお借りして成り立っております。ヨットスポーツは決して個人の力だけでは到底できないスポーツであります。その方々への感謝を忘れずに本大会に臨んでいただきたいと思います。

また、今大会開催に際し、多大なるご支援をいただきました関係諸団体、および関係者各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

中部学生ヨット連盟 委員長挨拶



中部学生ヨット連盟
委員長 高木 航

この度、2017年度全日本学生ヨット個人選手権大会が無事開催される運びとなり、開催に当たり、ご尽力頂いた関係各位の皆様にご心からお礼申し上げます。

本大会は、学生個人の頂点を決める大会です。全国の学生の中には、この大会出場を目指し、惜しくも出場を逃してしまった方も少なくないと思います。本大会に参加される皆様は、そのような方々の思いを背に、日頃の厳しい練習の成果を存分に発揮して頂きたいと願います。

「強いものが勝つのではない、勝ったものが強いのだ」とスポーツの世界ではよく言われますが、ヨット競技においても同じであると思います。過去の実績は関係ありません。選手の皆様、日本一の称号を自らの手で掴みとってください。自らが最強だと証明してください。

そして2020年には東京オリンピックが開催されます。本大会出場の選手から将来日本代表として活躍する選手が生まれるかもしれません。現在世界で活躍される先輩方に続く選手が、ここから生まれることを願っています。

各水域より勝ち抜いた選手の皆様に公平で円滑なレースを提供できるよう、最大限努力していく所存であります。選手の皆様が日々の練習の成果を発揮され、熱い戦いを繰り広げられることを願っております。

最後に、この大会を開催するにあたり、多大なご支援をいただきました諸団体、関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

大会役員

大会名誉会長	河野 博文	公益財団法人 日本セーリング連盟	会長
大会名誉副会長	関山 正	全日本学生ヨット連盟	名誉会長
	稲葉 正吉	蒲郡市	市長
大会会長	片山 直也	全日本学生ヨット連盟	会長
大会副会長	古川 裕之	全日本学生ヨット連盟	副会長
	豊田 鐵郎	愛知県ヨット連盟	会長
大会顧問	市川 隆	中部学生ヨット連盟	顧問
	森 信和	愛知県ヨット連盟	副会長
	森下 洋司	愛知県ヨット連盟	副会長
	渡辺 剛	全日本学生ヨット連盟	副会長 北海道水域
	大江 篤志	全日本学生ヨット連盟	副会長 東北水域
	紙谷 雅子	全日本学生ヨット連盟	副会長 関東水域
	黒木 保博	全日本学生ヨット連盟	副会長 近畿北陸水域
	梅田 直哉	全日本学生ヨット連盟	副会長 関西水域
	羽倉 義雄	全日本学生ヨット連盟	副会長 中国水域
	新井 信之	全日本学生ヨット連盟	副会長 四国水域
	桧垣 靖樹	全日本学生ヨット連盟	副会長 九州水域
大会委員長	石倉 俊宏	中部学生ヨット連盟	会長
大会副委員長	鵜飼 通夫	中部学生ヨット連盟	顧問
大会委員	高木 航	中部学生ヨット連盟	委員長
	岩井 俊樹	全日本学生ヨット連盟	委員長
	成瀬 未帆	北海道学生ヨット連盟	委員長
	降旗 英明	東北学生ヨット連盟	委員長
	菅原 雅史	関東学生ヨット連盟	委員長
	西村 翔	近畿北陸学生ヨット連盟	委員長
	岡竹 諒也	関西学生ヨット連盟	委員長
	西山 謙仁	中国学生ヨット連盟	委員長
	森 恒太郎	四国学生ヨット連盟	委員長
	加崎健太郎	九州学生ヨット連盟	委員長
大会事務局	坂浦 真希		

競 技 役 員

レース委員会

委員 長 岡田 彰
委 員 山本 浩資 坂井 正和 近藤真太郎
事 務 局 前野百合江
I R O 岡田 彰

プロテスト委員会

委員 長 古川 裕之
委 員 南原 健一 本多 哲也 斉藤 英明 鷺見 知幸 水野 秀輝 山口 康正
岡戸 信輔
事 務 局 肥田真理絵 大崎 歩夢

海上運営本部

本 部 長 岡田 彰
副本部長 山本 浩資
部 員 新美 忠邦 山田 賢司 生田真紀夫 石黒 裕之 内山 貴宣 若松 芳文
岡村 勝美 米本 裕 篠宮 元子 森岡 美樹 谷 隆之 肥子裕美子
前野百合江 渡邊 洋介 浅野 暁人 上江洲由悟
補助役員 田中 雅人 山田 浩介 大村 光輝 真野 創太 鈴木 空 後藤 基予
菅谷 涼太 山下 英之 深谷 旭宏 伊藤 翔哉 國井 健志 原井 亨
永田 拓 高野 健史 岡田 琢磨 鈴木 淳也

総務部

部 長 坂井 正和
副 部 長 木原 一憲
補助役員 高木 航 三品 順也 宮崎 直哉 岡田 龍起 坂井 梨花 園部 友香
山田 雅也 堀内 祐花

記録部

部 長 近藤真太郎
副 部 長 石田 紀恵
部 員 小嶋 光稀
補助役員 小田ちひろ 山本 理未

テクニカル委員会

委員 長 生田真紀夫
副委員長 谷 隆之
補助役員 贅 洋佑 岩瀬 圭登 小瀬水 健 鈴木 裕人 上田 和美 栃本 彩実

2017 年度全日本学生ヨット個人選手権大会 2017 年全日本学生シングルハンドレガッタ

開催地：愛知県蒲郡市 豊田自動織機海陽ヨットハーバー沖
大会期日：平成 29 年 8 月 11 日(金)～平成 29 年 8 月 14 日(月)
共同主催：全日本学生ヨット連盟 中部学生ヨット連盟
公認：(公財)日本セーリング連盟【H29-05】
後援：蒲郡市、蒲郡市教育委員会、中部ヨット協会、愛知県ヨット連盟
日本 470 協会、日本スナイプ協会、日本レーザークラス協会
特別協賛：日建リース工業株式会社 日建レンタコム株式会社 日建片桐リース株式会社
協賛：明治商工株式会社 株式会社伊藤園 蒲郡市観光協会
協力：豊田自動織機海陽ヨットハーバー 蒲郡三谷温泉平野屋

レース公示

1. 規 則

1. 本大会は「セーリング競技規則 2017 - 2020」(以下規則)に定義された規則を適用する。但しこれらの規則等のうち、本帆走指示書(以下 指示)によって変更されたものを除く。
2. 最新の「全日本学生ヨット連盟規約」「470 級学連申し合わせ事項」「スナイプ級学連申し合わせ事項」および「艇体への大学名表示に関する申し合わせ事項」を適用する。これらは全日本学生ヨット連盟にて入手することができる。
3. 規則付則 P の「セール番号」を「識別番号」に置き換え適用する。
4. SCIRA 規則の「国内及び国際選手権大会の運営規定」は、同規定 9.1 に定められたレースを行う最大風速に関する規定を除き適用されない。

2. 競技種目

2017 年度全日本学生ヨット個人選手権大会 : 国際 470 クラス、国際スナイプクラス
2017 年全日本学生シングルハンドレガッタ : レーザークラス

3. 広 告

国際 470 クラス、国際スナイプクラスは艇体の【添付図 A】に示す位置に、学連申し合わせ事項にもとづき所属大学名のステッカーを貼らなければならない。

4. 資格及びエントリー

1. 国際 470 クラス、国際スナイプクラスは 1 チーム選手 3 名としヘルムスマンの変更は認めない。
レーザークラスは 1 名とする。
2. 選手は全日本学生ヨット連盟規約 6 条を満たしており、各水域の推薦を得ている者。
国際 470 クラス、国際スナイプクラスの各水域推薦枠は、次のとおりとする。

北海道	東北	関東	中部	近畿 北陸	関西	中国	四国	九州	合計
3	3	18	4	6	6	4	3	6	53

3. 選手及び監督・コーチは2017年度（公財）日本セーリング連盟会員であること。
4. 国際470クラスの競技者は、日本470協会の2017年度団体会員登録を完了している大学ヨット部に所属していること。
5. 国際スナイプクラスの選手は2017年度SCIRA登録済みであること。

5. 日 程

8月11日	(金)	受付 計測	9:30~16:00
8月12日	(土)	受付・計測	8:30~ 9:30
		競技運営説明会	9:45~10:15
		開会式	11:00~11:30
		1日目の最初のレース	予告信号予定時刻
		国際470クラス	13:00
		国際スナイプクラス	13:07
		レーザークラス	13:12
8月13日	(日)	2日目の最初のレース	予告信号予定時刻
		国際470クラス	9:30
		国際スナイプクラス	9:37
		レーザークラス	9:42
8月14日	(月)	3日目の最初のレース	予告信号予定時刻
		国際470クラス	9:30
		国際スナイプクラス	9:37
		レーザークラス	9:42
		8月14日に表彰式及び閉会式を実施する	

1. 本大会のレース数は、各クラス最大8レースを予定している。各クラス3レースをもって大会成立とする。
2. 1日に実施するレース数は、レース委員会の裁量によるものとする。
3. 各日程における各クラスの次のレースはそれぞれ可能となれば、引き続き実施する。
4. 8月12日、8月13日は16:01以降、8月14日は13:01以降に予告信号は発せられない。

6. 艇

1. 艇は原則自己所有艇とするが、レース委員会が認めた場合は、参加者がチャーターした艇も可とする。
2. 国際スナイプクラスの艇は2017年度SCIRA登録済であること。
3. 国際470クラス、国際スナイプクラスの艇体には【添付図A】に示す『艇体への大学名表示に関する学連申し合わせ事項』に定められた表示をすると共に、レース委員会が準備した識別番号を指定した位置に貼り付けしなければならない。

7. セール

1. 各チームが持参し、1セットの予備セールを含んだ2セットまでとする。また、レーザークラスには主催者が用意したチャーターセールも可とする。
2. 国際470クラスのセールは、基本計測を完了していなければならない。
3. 国際スナイプクラスのセールは、2017年の年度計測を完了していなければならない。
4. 同一のセール番号を同時に使用してはならない。
5. オリジナルのセール番号に数字・形象等を付加した、各クラス協会に登録されていないセール番号を使用してはならない。
6. 国際470クラスのメインセールとスピナーカーのセール番号は同一でなければならない。
7. レーザークラスは、セールにレース委員会が準備した識別番号を【添付図A】にて指定された位置に貼り付けなければならない。これは規則77及び付則Gを変更している。

8. 計測

1. 参加するチームは、艇体および予備のセールを含むセールに関する各水域のオフィシャル・メジャーによる大会事前計測を完了したことを証明する「大会計測完了証明書」を提出するとともに、「大会計測済みスタンプ」の確認を計測受付にて受けなければいけない。また、この計測は、**平成29年7月2日(日)以降**に実施したものが有効となる。
2. 「大会計測完了証明書」発行後は、改造を行ってはいけない。計測後に修理・改造を行った場合は、再計測を受けなければいけない。
3. 各水域でやむを得ず計測ができなかったときやレース委員会が指定した計測を除き新たにセール等の計測を大会で実施する場合は、計測料として3,000円を支払うこと。この場合、理由によっては大会での計測は行わない。
(受け付けられない理由例：至近で新たにセールを購入して届いたら等の理由)

9. 参加申込み方法

参加資格のあるチームは、①②の項目の書類を電子メールで申込するとともに全ての申込書類を郵送すること。

- ① 参加申込書-1、参加申込書-2（競技者名簿）
- ② 参加申込書-3（支援艇許可申請書）
- ③ エントリー料・識別番号料の振込み領収書の写し
- ④ 参加申込書に記載した競技者全員および監督、コーチの『2017年度（公財）日本セーリング連盟メンバーカード』*の写しもしくは『JSAF 会員 web 画面』の写し
*日本セーリング連盟メンバーカードは、JSAF ホームページよりダウンロードし印刷可能
詳細は、JSAF へ問い合わせください。
- ⑤ 国際スナイプクラスの競技者は、『SCIRA へのメンバー登録番号』を参加申込書-2に記載のこと
- ⑥ レーザークラスをチャーターする場合は、チャーター料の『振込み領収書』の写し
①の項目書類は、**平成29年7月31日(月)17時まで**に電子メールで必着すること。
また、上記の申込書類を**平成29年8月1日(火)まで**に郵送で必着すること。
②の項目書類は、申込み期日までに間に合わなかった場合、問合せ先に電子メールと電話にて連絡したうえで、**平成29年8月10日(木)まで**に電子メールで必着すること。

郵送先 郵便番号 491-0835
住 所 愛知県一宮市あずら 2-14-1
氏 名 児山 弘昌
電話番号 090-1279-2118 E-mail: chubu_icyf@yahoo.co.jp

振り込先 三菱東京 UFJ 銀行 松阪支店 店番 532 普通 0090143
口座名義 全日本学生ヨット選手権（ゼンニホンガクセイヨットセンシュケン）
※銀行では口座名「チユウガクセイヨットレンメイ イクラ トシロ」で表示されることがある。

振り込みは、大学名と個人名を両方記入の上振込して下さい。

例 アイチダイ アイチタロウ

締め切り以降の申し込みに対しては、レイトエントリー扱いとし、8月4日(金)17時までに限り、所定のエントリーフィーに対し50%のペナルティーフィーを支払う事を条件に参加を認める。この場合、パンフレットへの名前は掲載されないことがある。また、申し込み後の返金は一切応じない。

10. 参加料

エントリー料	国際 470 クラス、国際スナイプクラス	20,000 円/艇
	レーザークラス	10,000 円/艇
識別番号料	レーザークラス除く	2,100 円/艇
レーザークラスチャーター料（野積み代含む）		
	（イ）セールを含む一式	12,410 円
	（ロ）セールのみ除く一式	9,410 円
	（ハ）艇体およびスパー	7,410 円

(注) 1. エントリー料には、8月12日から8月14日の給水設備使用料を含む。これ以外のハーバー使用料は、各チームでハーバー窓口に支払うこと。

2. レーザークラスのチャーターの申込は、申込書にて9の郵送先に送付することにより申込みを行うことが出来る。但し艇数に限りがあるため、先着順とする。艇の抽選は8月11日(金)9:30から行う。

11. 帆走指示書の交付

1. 平成29年7月25日(火)までに各水域学連委員長宛に送付するとともに、愛知県ヨット連盟のホームページへ掲載する。
2. 帆走指示書に対する質問は、8月6日(日)までに参加申し込み郵送先に到着するように、文書で提出の事。

質問に対する回答は、競技運営説明会開始までに公式掲示板に掲示される。

12. 受付

参加チームは大会本部で提出を求められた場合、次の書類等を提出し受付を完了させなければならない。

- ① 選手の(公財)日本セーリング連盟会員証。
- ② 監督・コーチの(公財)日本セーリング連盟会員証又はその写し。

- ③ 国際 470 クラスは計測登録証明書及び INTERNATIONAL 470CLASS Measurement Form
ただし、2011 年 7 月 29 日以前に登録された艇は、上記に加え計測登録証明書（原本）
- ④ 国際スナイプクラス計測証明書。
- ⑤ 「参加申込書-3」（「支援艇・応援艇許可申請書」）の写し

13. 得点

1. 艇のシリーズ得点は、完了したレースが 5 レース以下の場合、全レースの合計得点とし、6 レース以上完了した場合、最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。
2. 最優秀選手の選出において、国際 470 クラス、国際スナイプクラスで成立したレース数が異なる場合、艇の得点の平均値（小数点以下 2 位を四捨五入）を求め、少ない方を上位とする。
これでもタイとなった場合は、成立したレース数が多いクラスの選手を上位とする。成立したレース数が同じで得点がタイとなった場合は、規則 A8 を適用する。

14. コース

【添付図 B】の見取り図はレグ間の通過するマークの順序及びそれぞれのマークを通過する側を含むコースを示す。

15. 安全規定

各クラスは下記安全装備を搭載し、何時でも使用できるようにしておかなければならない。

1. 国際スナイプクラス：直径 8mm 以上、長さ 15m 以上のパウライン
2. レーザークラス：直径 6mm 以上、長さ 5m 以上のパウライン

16. 賞

賞は次のように与えられる。

国際 470 クラス、国際スナイプクラス	賞状 1 位～6 位
	賞品 1 位～3 位
レーザークラス	賞状 1 位～3 位
	賞品 1 位～3 位

国際 470 クラス、国際スナイプクラスの 1 位の選手には小澤杯を授与する。

国際 470 クラス、国際スナイプクラスの中で最少得点の選手には最優秀選手賞
関山旗を授与する。

17. [DP] 支援者

1. 支援艇・応援艇を持ち込む場合は、受付時に、「参加申込書-3」として郵送した「支援艇・応援艇許可申請書」のコピーを提出してレース委員会に登録し、「支援艇・応援艇許可証」を受け取らなければならない。
2. 豊田自動織機海陽ヨットハーバー内では、支援艇・応援艇は、主催団体が指定する棧橋以外に係留してはならない。豊田自動織機海陽ヨットハーバー以外より一時的に持ち込んだ支援艇・応援艇は、1 回あたり 15 分を越えて豊田自動織機海陽ヨットハーバー内の棧橋に係留してはならない。

3. 豊田自動織機海陽ヨットハーバーに一時的でも入港する支援艇・応援艇は、海陽ヨットハーバーの所定の手続きを行い使用料の支払いをすること。
4. 支援者の乗る船は、水上にいる間、大会本部で貸与する識別用リボンを目立つように掲揚しなければならない。『識別用リボン』は、水面より1m以上の高さに掲揚するとともに、支給する『大学名を記した表示』を目立つように掲示しなければならない。
5. 支援者は、レース委員会及びプロテスト委員会の無線を傍受してはならない。

18. 責任の否認

1. 競技者は、自分自身の責任において本大会参加している。
(規則4「レースをすることの決定」を参照)
2. 主催団体は、本大会前、本大会中、本大会後に関連して受けた物的損傷または個人の負傷、もしくは死亡に対するいかなる責任を否認する。

19. 大会期間中の選手の肖像権

本大会期間中の、艇、選手に関連する写真、ビデオ等の全ての著作物、映像に関する権利は主催団体に帰属する。また、これら写真は、ホームページ等へ掲載されることがある。

20. ドーピング検査

1. 本大会は、日本ドーピング防止規程に基づくドーピング検査対象大会である。本大会参加者は、参加申し込みした時点で日本ドーピング防止規程にしたがい、ドーピング検査を受けることに同意したものとみなす。
2. 未成年者の本大会参加者への参加申し込みにおいては、上記のドーピング検査の実施について親権者から同意を得たものとみなす。
3. 本大会参加者は、大会期間中に行われるドーピング検査を拒否又は回避した場合、検査員の指示に従わない場合、帰路の移動等個人的諸事情によりドーピング検査手続きを完了することができなかつた場合等は、ドーピング防止規則違反となる可能性がある。ドーピング防止規則違反と判断された場合には、日本ドーピング防止規程に基づき制裁等を受けることになるので留意すること。
4. 日本ドーピング防止規程の詳細内容およびドーピング検査については、
(公財)日本アンチ・ドーピング機構のウェブサイト(<http://www.playtruejapan.org>)にて、確認すること。

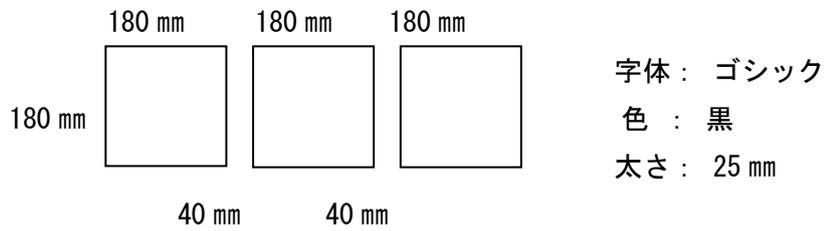
21. 問い合わせ先

中部学生ヨット連盟 委員長 氏名：高木 航

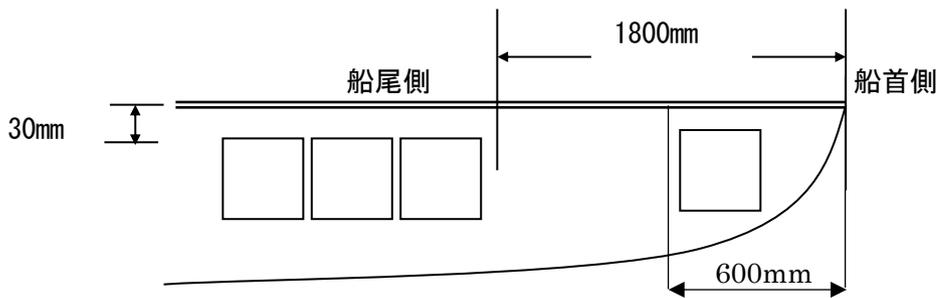
TEL : 080-5122-1232 E-mail : chubu_icyf@yahoo.co.jp

【添付図 A】 艇体および識別番号貼付位置

(1) 国際 470 クラス、国際スナイプクラス



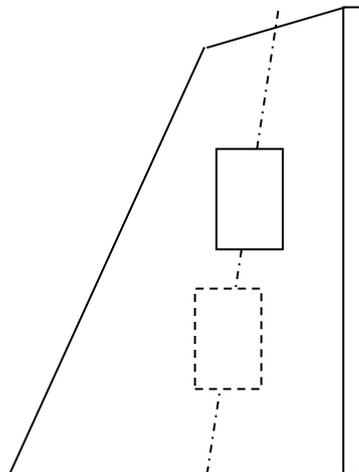
- ・ 大学名シールは、各大学（または水域）で作成する。
- ・ 貼付位置は前部デッキのステムから後方 1800 mm より後ろ近い部分の両側板部分とする。ただし、文字の大きさは 180 mm 以上であれば任意とし、それに伴った字間、太さの変動は認める。また、艇体が濃色で黒色では見えにくい場合に限り、白色で表示することも可とする。
- ・ バウの先端から、600 mm の間に識別番号を張り付ける。
国際 470 クラス：黒色 国際スナイプクラス：赤色



* 取り付け位置の若干の誤差は無視する。

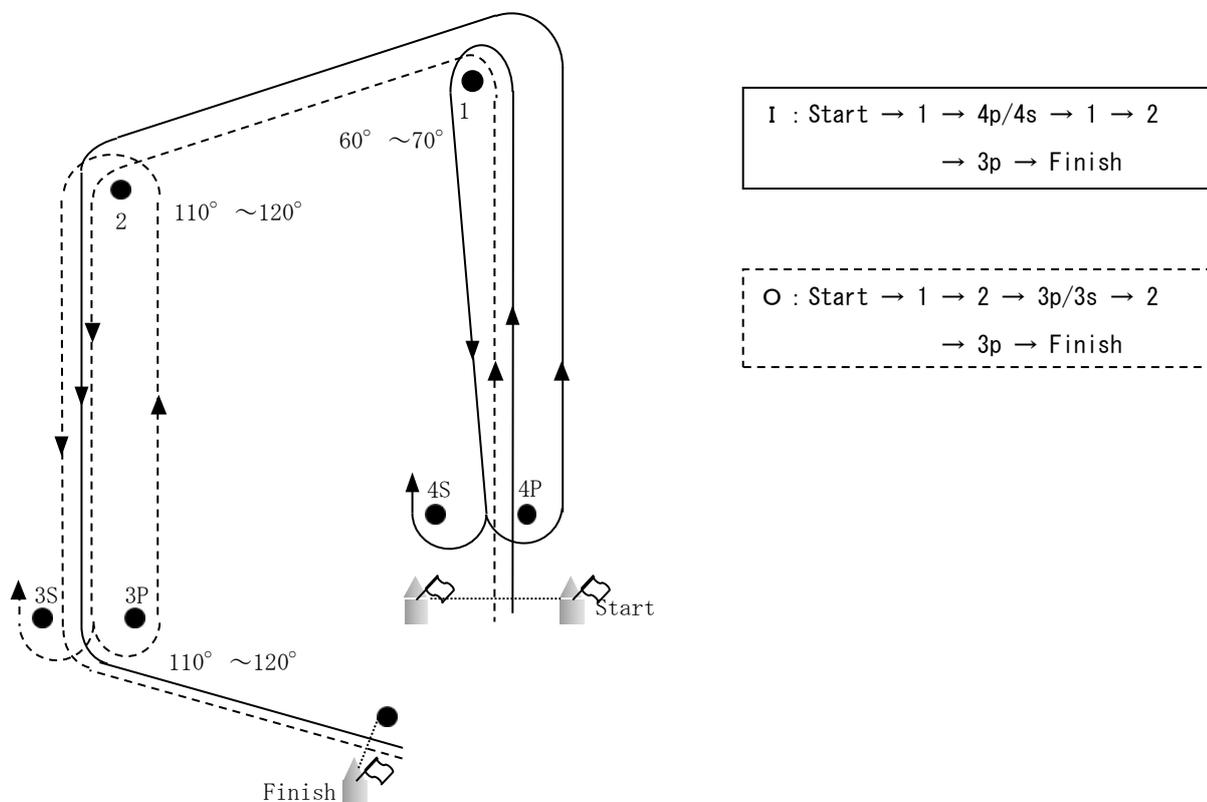
(2) レーザークラス

- ・ 識別番号は、セール上部の左右の中心付近に取り付けること。
- ・ スターボードとポートのナンバー、クラスマークがそれぞれ重ならないようにすること。
- ・ 識別番号は、スターボード側が上にくるようにすること。

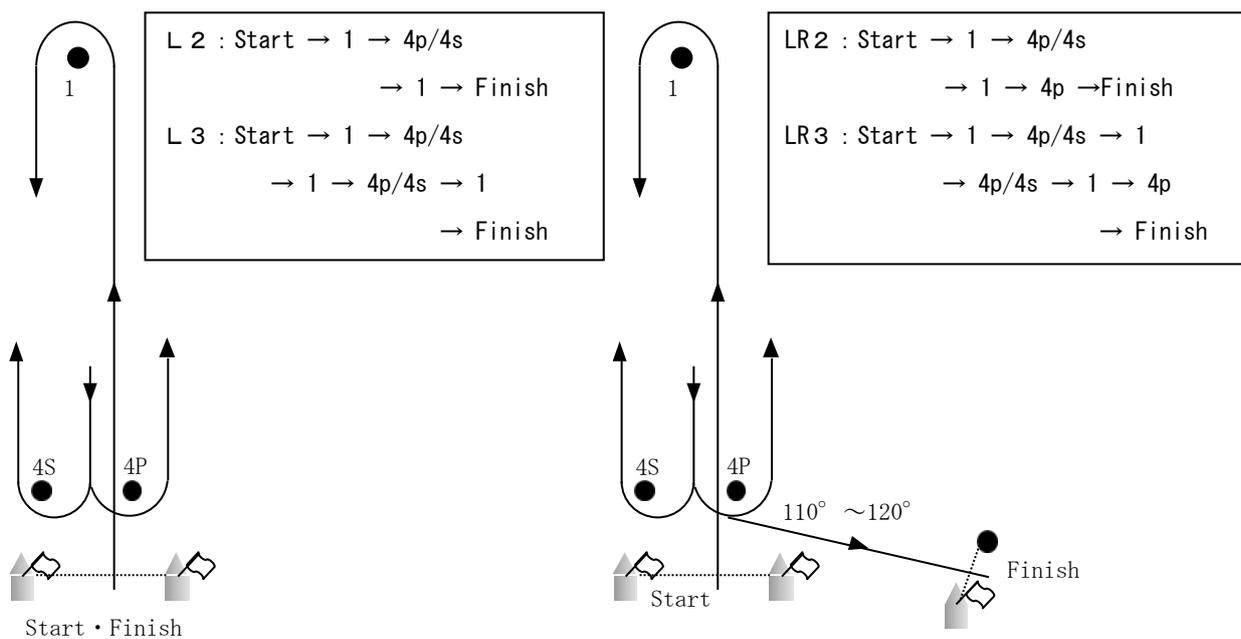


【添付図 B】：コース見取り図

国際 470 クラス、国際スナイプクラス



レーザークラス



以上

大会名称：2017年度 全日本学生ヨット個人選手権大会
2017年 全日本学生シングルハンドレガッタ
大会期日：平成29年8月11日（金）～ 平成29年8月14日（月）
共同主催：全日本学生ヨット連盟・中部学生ヨット連盟

帆走指示書

1. 規 則

- (1) 本大会は、『セーリング競技規則 2017-2020』（以下、『規則』という）に定義された規則を適用する。
- (2) 最新の「全日本学生ヨット連盟規約」「470級学連申し合わせ事項」「スナイプ級学連申し合わせ事項」および「艇体への大学名表示に関する申し合わせ事項」を適用する。これらは全日本学生ヨット連盟にて入手することができる。
- (3) 付則Pを適用する。ただし、規則P1文中の『セール番号』は、『識別番号』に置き換える。これは規則P1を変更している。
- (4) SCIRA規則の「国内及び国際選手権大会の運営規定」は、同規定9.1に定められたレースを行う最大風速に関する規定を除き適用されない。

2. 競技者への通告

競技者への通告は、大会本部前に設置された公式掲示板に掲示される。

3. 帆走指示書の変更

帆走指示（以下、『指示』という）の変更は、それが発効する当日の08:30までに掲示される。但しレース日程の変更は、前日の17:30までに掲示される。

4. 陸上で発する信号

- (1) 陸上で発せられる信号は大会本部前のポールに掲揚される。
- (2) D旗が音響信号1声と共に掲揚された場合、「出艇を許可する」ことを意味する。艇は、この信号が発せられるまで、離岸してはならない。スタート予告信号は、D旗掲揚40分以降に発する。D旗がクラス旗の上に掲揚された場合、そのクラスのみに当該信号が適用される。
- (3) 指示5(1)に示された個別のレースに対してAP旗は掲揚されない。
予告信号予定時刻の40分前までにD旗が掲揚されない場合、そのレースのスタートは時間に定めなく延期されている。

5. レースの日程

(1) レースの日程は次の通りとする。

8月12日 (土)	1日目の最初のレース	予告信号予定時刻
	国際470クラス	13:00
	国際スナイプクラス	13:07
	レーザークラス	13:12
	以降のレースは引き続き行うものとする	

8月13日 (日)	2日目の最初のレース	予告信号予定時刻
	国際470クラス	9:30
	国際スナイプクラス	9:37
	レーザークラス	9:42
	以降のレースは引き続き行うものとする	

8月14日 (月)	3日目の最初のレース	予告信号予定時刻
	国際470クラス	9:30
	国際スナイプクラス	9:37
	レーザークラス	9:42
	以降のレースは引き続き行うものとする	

(2) 本大会のレース数は、各クラス最大8レースを予定している。各クラス3レースをもって大会成立とする。

1日に実施するレース数は、レース委員会の裁量によるものとする。

(3) 各日程における各クラスの次のレースの予告信号は、それぞれ実施可能となれば、引き続き実施する。この場合、レース委員会信号艇は引き続き行なわれるレースの最初のクラスの予告信号の5分前以前に音響信号1声とともにオレンジ色旗を掲揚し競技者に通知する。

(4) 8月12日、8月13日は16:01以降、8月14日は13:01以降に予告信号は発せられない。

6. クラス旗

クラス旗は次の通りとする。

クラス	旗
国際470クラス	470旗
国際スナイプクラス	スナイプ旗
レーザークラス	レーザー旗

7. レースエリア

添付Aに概ねのレースエリアの位置を示す。

8. コース

- (1) 添付Bの見取り図はレグ間の通過すべきマークの順序及びそれぞれのマークを通過すべき側を含むコースを示す。
- (2) 予告信号以前に、スタートラインの中間点から最初のマークのおおよそのコンパス方位をレース委員会信号艇に掲示する。
- (3) 国際 470 クラス及び国際スナイプクラスは、I, O、レーザークラスは L2, L3, LR2, LR3 を用意する。予告信号以前にレース委員会信号艇後部のボードにコース番号を掲示する。

9. マーク

- (1) M1、M2、3P、3S、4P および 4S は、各々黒色の数字入りのオレンジ色の円筒形ブイとする。
- (2) マーク移動を行う場合、変更後のマークはオレンジ色の三角錐形ブイを使用する。

10. スタート

- (1) レースは以下の追加事項と、規則 26 に従いスタートさせる。
- (2) スタートラインは、スターボードの端にあるレース委員会信号艇のオレンジ色旗を掲揚したマストと、ポートの端となるレース委員会艇のオレンジ色旗を掲げたポールの間とする。
- (3) [DP] 他のクラスのスタート手順の間、予告信号が発せられていない艇は、【添付図 C】に示されたスタート・エリアを回避していなければならない。
- (4) スタート信号の 4 分以降にスタートする艇は、「スタートしなかった (DNS)」と記録される。これは規則 A4. A11 を変更している。
- (5) 規則 30. 4「黒色旗規則」が適用されたレースにおいて、ゼネラル・リコール信号が発せられた場合、又はレースがスタート信号後中止となった場合、黒色規則に違反した艇の識別番号をそのレースの次の予告信号以前にレース委員会信号艇の後部に掲示する。これは規則 30. 4 を変更している。

11. フィニッシュ

フィニッシュラインは、スターボードの端にある青色旗を掲揚したレース委員会艇のオレンジ色旗を掲揚したポールとポートの端となるオレンジ色の円筒形ブイのフィニッシングマークの間とする。

レーザークラスのコース L2, L3 とした時のフィニッシュラインは、スターボードの端にある青色旗を掲揚したレース委員会艇のオレンジ色旗を掲揚したポールとポートの端となる青色旗を掲揚したレース委員会艇のオレンジ色旗を掲揚したポール間とする。

12. タイムリミット

先頭艇がコースを帆走して、フィニッシュ後 15 分以内にフィニッシュしない艇は、審問無しに「フィニッシュしなかった (DNF)」と記録される。これは規則 35、A4 及び A5 を変更している。

13. コースの短縮又は中止

規則 32. 1 以外に、レースを続行するに支障を来たす風速の低下が一定期間継続した場合、レース委員会は「レースの中止」又は「コースの短縮」をする場合がある。

14. [DP]ペナルティー方式

規則 44.1、44.2 に基づきペナルティーを履行した競技者は、抗議締め切り時間内にプロテスト事務局で入手できる所定の用紙に記入の上プロテスト事務局へ提出しなければならない。

15. 抗議と救済の要求

- (1) 抗議及び救済は、プロテスト事務局で入手できる所定の用紙に記入の上、当日の当該クラス最終レース終了後 60 分以内にプロテスト事務局へ提出しなければならない。これは規則 62.2 を変更している。
但しプロテスト委員会の裁量によりこの時間を延長する場合がある。
- (2) レース委員会またはプロテスト委員会による規則 61.1 (b) に基づく競技者への抗議の通告は、抗議締め切り時刻までに公式掲示板に提示される。これは規則 61.1 (b) を変更している。
- (3) 当事者であるか、または証人として名前があげられて審問に関わっている競技者に通告するために抗議締め切り後 15 分以内に公式掲示板に公示を掲示する。審問はプロテスト委員会においてほぼ受付順に行う。
- (4) 指示 10(3)、13、14、17、18、19 の違反は艇による抗議または救済の要求の根拠とはならない。これは規則 60.1 (a) を変更している。
- (5) 規則 66 に基づく「審問の再開」は、判決を通告された日の翌日の 9:00 までに限り求めることができる。

16. 得点

- (1) 艇のシリーズ得点は、完了したレースが 5 レース以下の場合、全レースの合計得点とし、6 レース以上完了した場合、最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。
- (2) 最優秀選手の選出において、国際 470 クラス、国際スナイプクラスで成立したレース数が異なる場合、艇の得点の平均値(小数点以下 2 位を四捨五入)を求め、少ない方を上位とする。
それでもタイとなった場合は、成立したレース数が多いクラスの選手を上位とする。成立したレース数が同じで得点がタイとなった場合は、規則 A8 を適用する。

17. [DP]安全規定

- (1) 出艇しようとする競技者は、当該クラスの予告信号予定時刻の 60 分前から 20 分前までの間に大会本部前に出される出艇・帰着表にサインをしてから出艇しなければならない。
- (2) 帰着した競技者は着艇後速やかに(レース委員会が正当な理由があると認めた場合その代理人)大会本部前出艇・帰着表にサインをしなければならない。記載は、レース終了後(引き続きレースが行われた場合はそのレース終了後)、またはレース委員会が、本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から 60 分以内とする。但しこの時間はレース委員会の裁量により延長することがある。
- (3) 転覆その他の理由により帰着が遅れた場合には、その旨をレース委員会に速やかに届け出なければならない。

- (4) リタイアしようとする競技者は、速やかにレースエリアを離れリタイアの意思を近くのレース委員会艇に伝えなければならない。競技者は指示 17(2)に従い帰着申告を行った後、速やかにレース委員会で入手できるリタイア報告書を提出しなければならない。やむを得ず運営艇にリタイアの旨を伝える事が出来なかった場合は、リタイア報告書にその理由を記入しなければならない。
- (5) レース委員会は競技者が帆走不可能もしくは危険な状態にあると判断した場合にはその競技者にリタイアを勧告することがある。
- (6) 17 の申告に関する手続きに誤りがあった艇に対して、レース委員会は審問なしに PTP と記録し、確定順位+3 点の得点を与える。ただし、当該種目参加艇数+1 点を上回らない。これは規則 63.1、A4 および A5 を変更している。なお引き続きのレースが行われた場合には指示 17(1)の手続きの誤りについてはその直後のレースに、指示 17(2)の手続きの誤りについてはその直前のレースにペナルティーを課す。

18. [DP] 競技者の交代と装備の交換

- (1) 各クラスともヘルムスマンの変更はできない。
- (2) 競技者は各日の最初のレースの乗員を所定の用紙に記入の上、指示 17(1)と同時に大会本部に提出しなければならない。
- (3) 当日の 2 レース目以降海上で競技者の交代をする場合は、口頭でレース委員会艇に確認を受けなければならない。この場合所定の用紙に記入の上、指示 17(2)と同時に大会本部に提出しなければならない。
- (4) 損傷または紛失した装備の交換は、テクニカル委員会の承認なしでは許可されない。交換の要請は最初の適当な機会にテクニカル委員会に行わなければならない。

19. [DP] 支援者

- (1) 支援者が乗船する船を出艇させレースエリアに来る場合、レース日の 08:00 から 09:00 までの間に、大会陸上本部に『支援艇・応援艇届』を提出しなければならない。
- (2) 支援者は、水上にいる間、大会陸上本部で貸与する『識別用リボン』を水面より 1m 以上の高さに掲揚するとともに、支給する『大学名を記した表示』を目立つように掲示しなければならない。
- (3) 支援者は、最初にスタートするクラスの準備信号から、全ての艇がフィニッシュするか、もしくはリタイアするか、またはレース委員会が延期、ゼネラル・リコールもしくは中止の信号を発するまで、【添付図 D】が示す艇がレースをしているエリアの外側にいなければならない。
- (4) 支援者は、レース委員会及びプロテスト委員会の無線通信を傍受してはならない。
- (5) レース委員会艇に『緑色旗』が掲揚された場合、『支援者は、レースをしているエリアを含む全てのエリアにおいて、危険な状態にある艇を可能な限り速やかに救助しなければならない。』ことを意味する。この場合、指示 19(3)は適用されない。
- (6) 豊田自動織機海陽ヨットハーバー内では、支援者は、主催団体が指定する棧橋以外に係留してはならない。また、豊田自動織機海陽ヨットハーバー以外より入港した支援者は、1 回あたり 15 分を越えて豊田自動織機海陽ヨットハーバー内の棧橋に係留してはならない。

20. 装備と計測のチェック

艇または備品は、規則に従っていることを確認するためいつでも検査されることがある。

2 1. 無線通信

競技者は、レース中無線通信を行ってはならない。また全ての艇が利用できない無線通信を傍受してはならない。この制限は、携帯電話にも適用する。

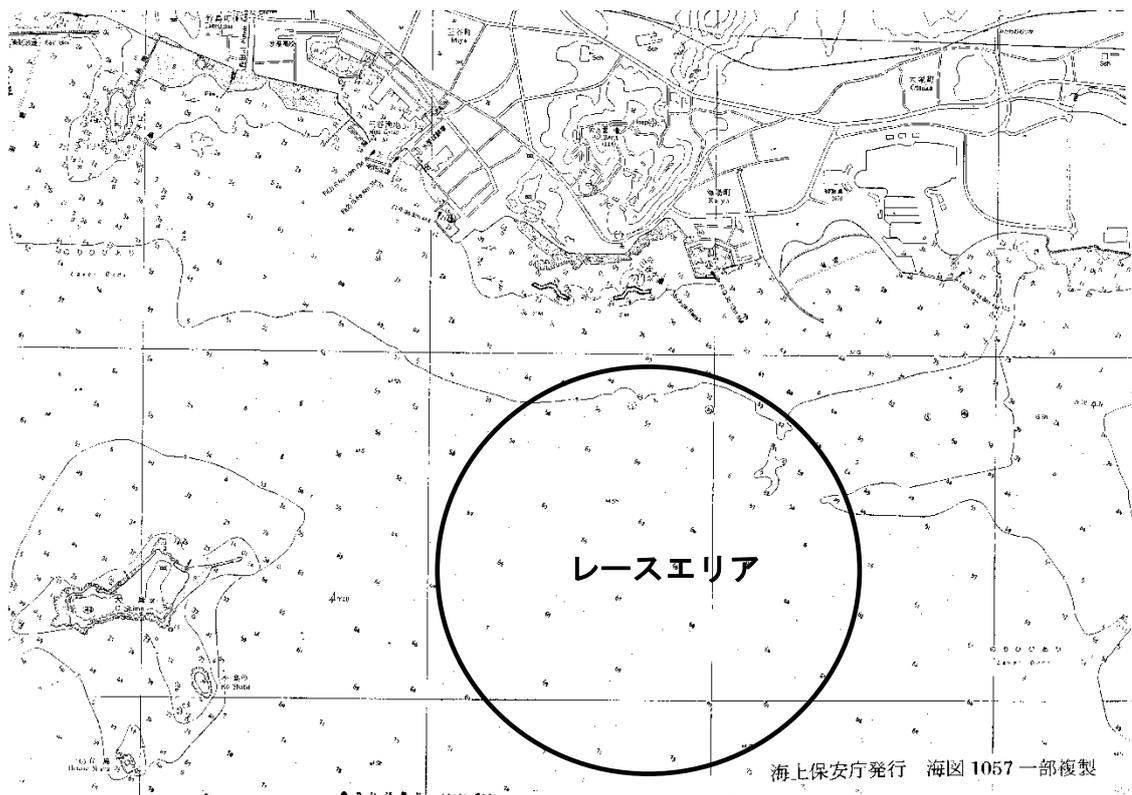
2 2. 賞

レース公示どおり、賞を与える。

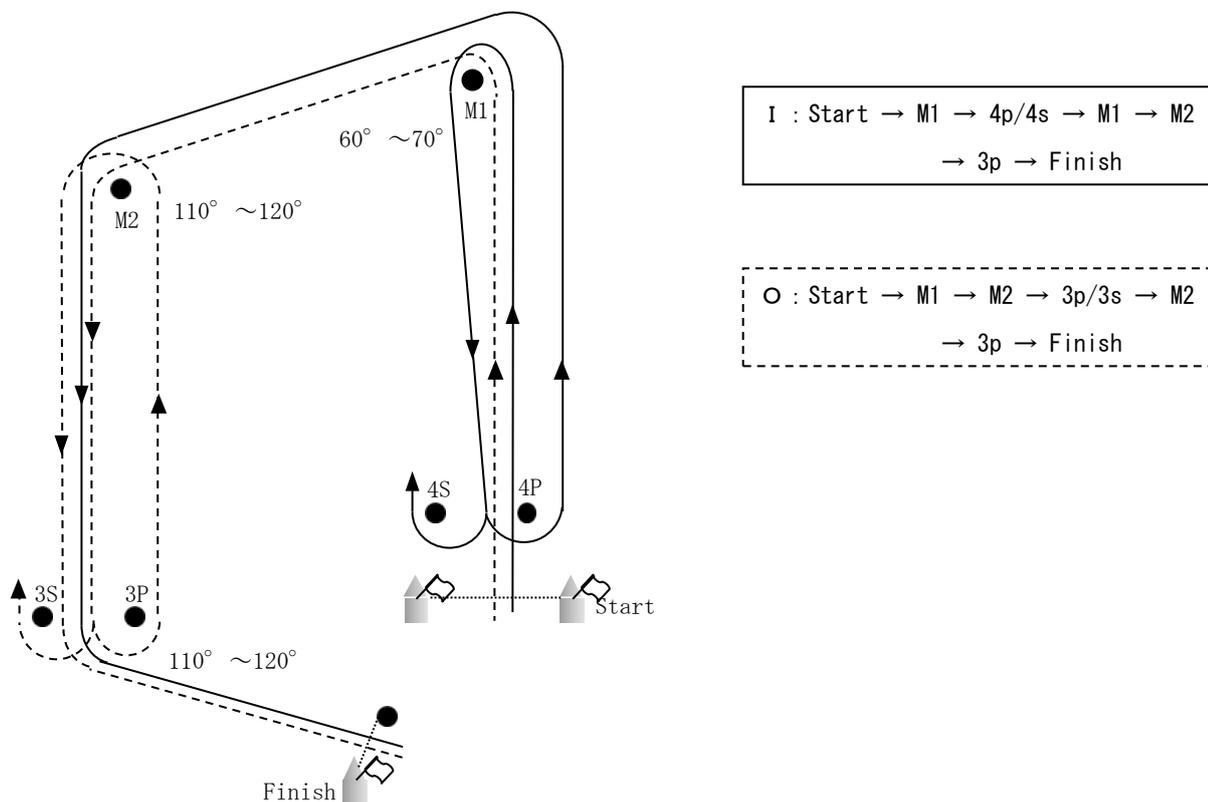
2 3. 責任の不認

- (1) 競技者は、自分自身の責任において本大会参加している。規則 4「レースをすることの決定」を参照されたい。
- (2) 主催団体は、本大会前、本大会中、本大会後に関連して受けた物的損傷または身体障害もしくは死亡に対するいかなる責任も負わない。

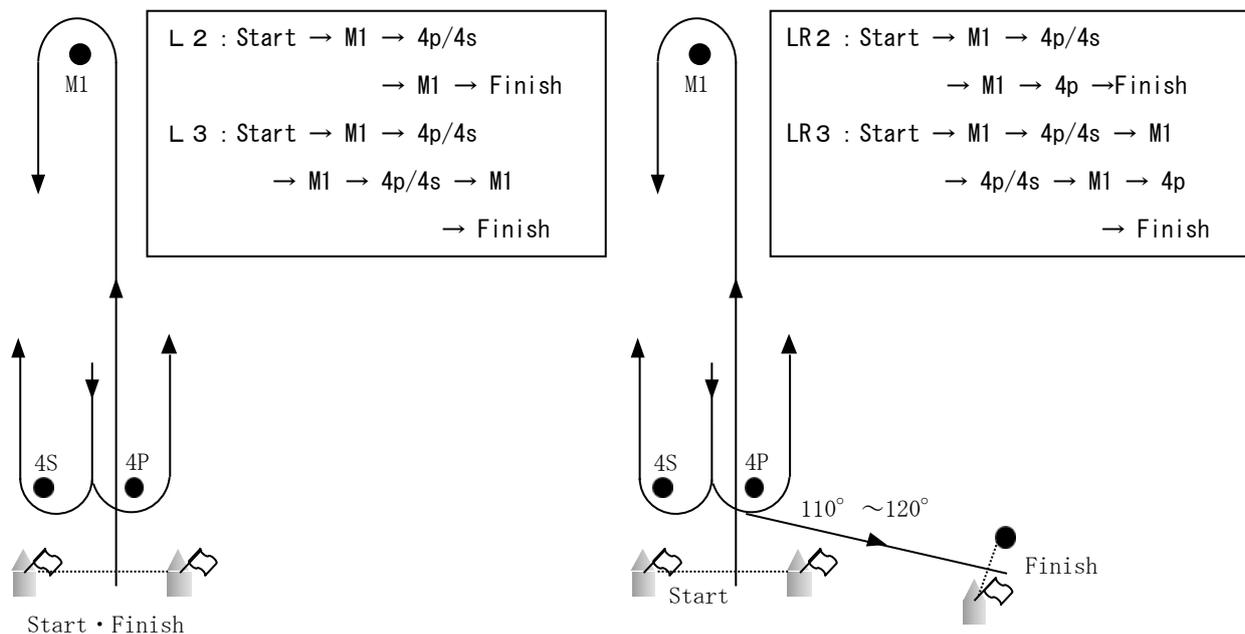
添付A：レースエリア



添付B：コース見取り図 国際470クラス、国際スナイプクラス

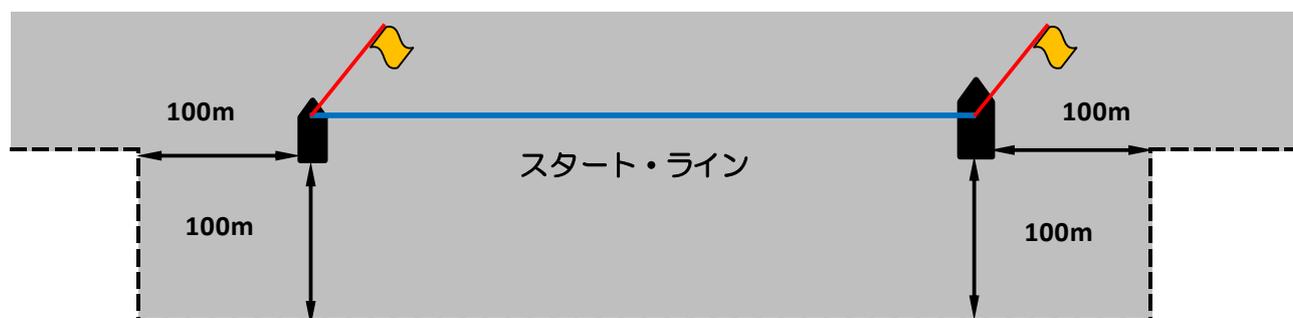


レーザークラス



添付 C : スタート・エリア

指示 10(3)にて規定されている「スタート・エリア」を点線で示す。

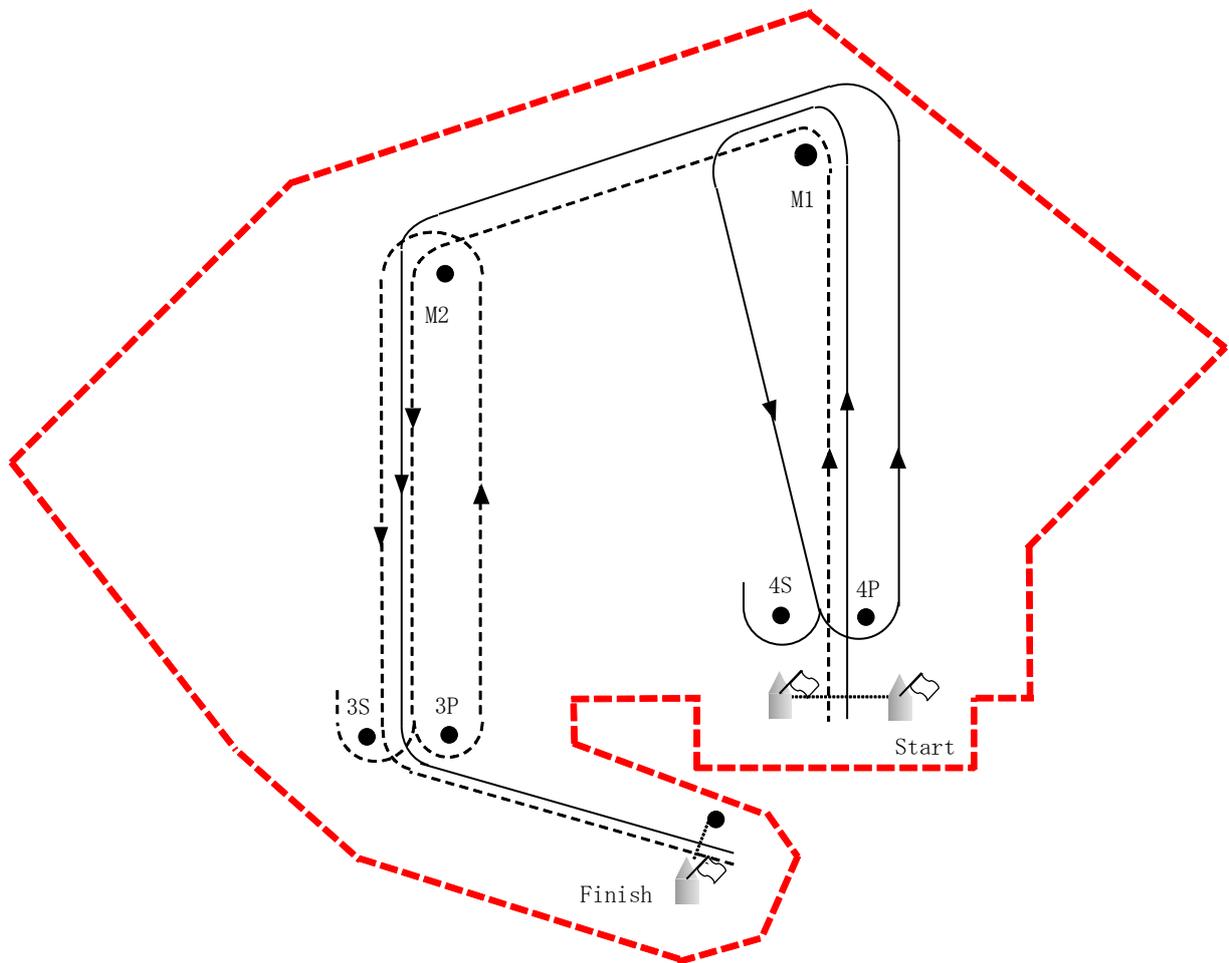


添付D：レース・エリア

指示 19(3)にて規定されている「艇がレースをしているエリア」

支援者は、レース中以下の図に示す点線の内側に入ってはならない。

この点線は、レース委員会艇、スタートライン、フィニッシュライン、マーク及び艇が帆走するであろう位置から距離 100m を示している





470 Class



水域	スキッパー	クルー	クルー	大学名	識別番号	セール番号
北海道	長岡希里	秋山凌		小樽商科大学	1	4531
	植田海透	三ツ田隆将		北海道大学	2	4290
	前田翔	山城琢海		室蘭工業大学	3	4591
東北	小島僚将	降旗英明		東北大学	4	4535
	松本拓	片田晃輔		東北大学	5	4534
	吉田佳織	澤田英史	八幡恒輝	東北学院大学	6	4441
関東	斎藤文人	江頭英翔		慶應義塾大学	7	4598
	村瀬志綱	樫本達真		慶應義塾大学	8	4528
	吉村彰人	出口廣智		慶應義塾大学	9	4469
	榊原隆太郎	岩田慧吾		中央大学	10	4571
	菅野翔	宮口悠大		中央大学	11	4484
	榊原健人	齋藤七大	桑野絵理佳	中央大学	12	4429
	奥村将文	服部勇輝		日本大学	13	4578
	赤木恒平	濱野舜斗	宮野奈々	日本大学	14	4575
	中山由紀美	工藤彩乃		日本大学	15	4574
	永井涼介	盛田冬華		法政大学	16	4620
	赤嶺華歩	馬渡風沙		法政大学	17	4501
	足立茉莉花	田中颯人		法政大学	18	4366
	楠瀬和旺	玉井瑛士	松野圭吾	明海大学	19	4566
	鍋岡薫	戸井瀬亜	鈴木真人	明海大学	20	4402
	小倉晴太	沖龍葵	坂本誠悟	明治大学	21	4606
	岡田奎樹	秦和也		早稲田大学	22	4562
元津志緒	永島慶也		早稲田大学	23	4504	
田中美紗樹	岩井俊樹		早稲田大学	24	4411	
中部	石黒武志	兵藤麗奈		愛知工業大学	25	4249
	柴本陸	中村駿希	矢ヶ崎新	愛知工業大学	26	3876
	三品順也	嶋田涼		愛知大学	27	4432
	酒井基与斗	小島拓己		東海大学	28	3869
近畿北陸	高橋裕人	小松賢司	吉田敏博	京都大学	29	4489
	村田健	芦田翼	岡本直樹	滋賀大学	30	4609
	野口美晴	岡本朋子	山形純平	同志社大学	31	4589
	矢野航志	原田勇毅		同志社大学	32	4586
	續木茄可	藤原雄斗	上野翔大	同志社大学	33	4363
	井上義大	大久保勇		立命館大学	34	4643

水域	スキッパー	クルー	クルー	大学名	識別番号	セール番号
関西	有岡翼	大野将寿		関西学院大学	35	4594
	小泉志織	瀧川佳都		関西学院大学	36	4529
	上野航	光森慎之介		関西学院大学	37	4500
	山下万理	本田有咲	木下雅崇	関西学院大学	38	4408
	藤井純也	三浦克己	中村美貴	甲南大学	39	4497
	赤尾裕亮	上野智央		甲南大学	40	4428
中国	高橋美歩	前田真吾	則友開路	岡山大学	41	4390
	大山さくら	高崎天馬		岡山大学	42	4202
	岩本まなみ	堀江哲		岡山大学	43	4201
	上岡拓矢	竹中展	岸本拓也	鳥取大学	44	4510
四国	森恒太郎	西川和毅		徳島大学	45	4568
	津川佳嗣	河合勇輝	山室達也	徳島大学	46	4567
	青木真	金子朋実	近藤拓実	高知大学	47	3394
九州	平野匠	高柳彬		日本経済大学	48	4558
	矢田奈津美	野田友哉		日本経済大学	49	4407
	河原田健介	長尾創馬		九州大学	50	4597
	真鍋優	三谷和也	此上友唯	鹿屋体育大学	51	4467
	岩城拓海	伊藤愛梨		鹿屋体育大学	52	4337
	岩下メナード	石田千尋	川邊朱里	鹿屋体育大学	53	4278



Snipe Class



水域	スキッパー	クルー	クルー	大学名	識別番号	セール番号
北海道	西野峻史	亀岡悠香		北海道大学	1	31416
	佐藤陽亮	堀井純太		北海道大学	2	30841
	桑内大輔	榎並諒		北海道大学	3	30636
東北	小山礼	増田千恵	横山大星	東北大学	4	31378
	伊藤優希	阿部俊介		東北大学	5	31234
	大山チカ	竹中智紀		東北大学	6	31229
関東	渡辺大樹	小川周		学習院大学	7	31025
	岡豪太	小野山裕也		慶應義塾大学	8	31133
	越川智博	小川昭人		慶應義塾大学	9	31092
	小澤駿	斎藤洋童		慶應義塾大学	10	31006
	太中賢	関口舜一		慶應義塾大学	11	30233
	玉山裕登	曾我駿亮		慶應義塾大学	12	29675
	岸祐花	清田司	齋藤健斗	中央大学	13	31319
	高山颯太	千葉将貴		中央大学	14	31009
	菅原雅史	浅川雄基	江村大樹	東京大学	15	30563
	矢野伸一郎	青木祐哉	上田育美	日本大学	16	31379
	井嶋博之	村上義龍		日本大学	17	31356
	池田紅葉	村瀬奏斗	林佳奈	日本大学	18	31293
	佐藤武	柏谷大樹		法政大学	19	31336
	北林妙恵子	藤代浩輔		法政大学	20	30941
	鈴木颯太	安藤駿佑	長富吾郎	明治大学	21	31081
	永松礼	川上健太		早稲田大学	22	31380
入江裕太	三宅功輔		早稲田大学	23	31306	
松尾虎太郎	坂上宗輝		早稲田大学	24	31178	
中部	関春花	廣野晴保	鶏内あゆみ	三重大学	25	31170
	佐々木拓磨	児山弘昌	並河晃器	名古屋工業大学	26	31246
	川合洋平	上村享平	五十嵐樹	名古屋工業大学	27	30188
	高木航	高柳直角		名城大学	28	31374
近畿北陸	富田泰弘	寒川紗季		金沢大学	29	30622
	岡儀法	小林侑矢	山本恭平	同志社大学	30	31373
	松尾光暉	矢澤友香	椿淳至	同志社大学	31	31181
	奥晴志朗	大川在一		同志社大学	32	30308
	杉山航一朗	三輪虹輝		同志社大学	33	30080
	新谷大成	大橋克幸		富山大学	34	30977

水域	スキッパー	クルー	クルー	大学名	識別番号	セール番号
関西	後藤陽一郎	川勝怜	大平龍之介	関西学院大学	35	31351
	山本皓貴	中島悠介		関西学院大学	36	31186
	奥村潮	柴田和輝		関西学院大学	37	31079
	南博之伸	井阪雅仁		甲南大学	38	30987
	津島範之	尾川翔		甲南大学	39	30969
	松本英樹	親川達郎		大阪大学	40	31419
中国	岩知道将輝	内海麻綺		岡山大学	41	30721
	本川凱喜	川口滉太		広島大学	42	31305
	西田睦	西村渚生		広島大学	43	30804
	辰巳嘉大	西山謙仁		広島大学	44	30574
四国	蟹江航晴	流千里		香川大学	45	31056
	渡邊杉菜	小林直也		徳島大学	46	30518
	林滉晴	南幸道隆		徳島大学	47	28129
九州	近藤亘	伊良皆興	比嘉みなみ	九州大学	48	31335
	高山達矢	内藤大敬	鹿野千尋	九州大学	49	31272
	槇原豪	加崎健太郎		九州大学	50	31054
	高橋将至	八並克憲		九州大学	51	30945
	市橋祐里	村川和樹		福岡大学	52	30084
	福井丈一	石井孝幸		長崎総合科学大学	53	31411



Single Handed Class



水域	スキッパー	大学名	識別番号	セール番号
関東	高本 健太	防衛大学	1	チャーター
関東	伊藤 七瑠	法政大学	2	チャーター
関東	神田 拓海	東京海洋大学	3	チャーター
中部	安藤 亮治	愛知大学	4	152694
中部	早川 裕文	名城大学	5	154570
中部	中溝 晃弘	東海大学	6	98866
中部	石井 雄理	東海大学	7	チャーター
中部	早川 雅人	名古屋工業大学	8	チャーター
中部	江崎 亮介	三重大学	9	196466
九州	岩城 海都	鹿児島国際大学	10	184010
九州	橋口 慎平	九州大学	11	チャーター

M E M O

歴代優勝者

大会期日	開催地	クラス	学校名	ヘルムスマン	クルー
1998 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	日本大学	秋吉 輝人	渡辺 隆蔵
		スナイプ	同志社大学	原口 裕司	木見尻拓宣
1999 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	日本大学	荒川 海彦	関根悠一郎
		スナイプ	福岡大学	沖西 祥宏	中島 伸義
		シングルハンド	法政大学	栄楽 洋光	—
2000 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	日本大学	荒川 海彦	関根悠一郎
		スナイプ	福岡大学	中村 匠	讃井 俊博
		シングルハンド	岡山理科大学	鷺崎 隆陽	—
2001 年度	新西宮 Y. H	470	同志社大学	松永 鉄也	佐澤 孝悠
		スナイプ	福岡大学	中村 匠	上田 真聖
2002 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	立命館大学	伊藤 友紀	梶原 孝信
		スナイプ	福岡大学	城 航太	古賀 智彦
		シングルハンド	法政大学	原田 康幸	—
2003 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	第一経済大学	坂口 英章	今井／新居
		スナイプ	福岡大学	城 航太	岩瀬 廣亮
		シングルハンド	鹿屋体育大学	大久保光裕	—
2004 年度	福岡市小戸 Y. H	470	福岡大学	前田 弘樹	木村 彰吾
		スナイプ	福岡大学	古賀 智彦	江口 信雄
2005 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	日本大学	石川 裕也	野呂 英輔
		スナイプ	同志社大学	西村 裕司	梶本 昇司
		シングルハンド	近畿大学	疋田菜穂子	—
2006 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	関西学院大学	市野 直毅	佐藤／牛尾
		スナイプ	日本大学	大井 祐一	中島 貢
		シングルハンド	鹿屋体育大学	藤谷 匠	—
2007 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	福岡経済大学	富岡 潤貴	吉見 亮平
		スナイプ	福岡大学	長谷川 孝	田中 勇祐
		シングルハンド	鹿屋体育大学	安田真之助	—
2008 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	福岡経済大学	宮川 英之	永井 俊之
		スナイプ	福岡大学	川原 秀之	田中 勇祐
		シングルハンド	東海大学	九富慎太郎	—

大会期日	開催地	クラス	学校名	ヘルムスマン	クルー
2009 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	日本経済大学	飯塚 潮吹	外菌 潤平
		スナイプ	早稲田大学	木内 蓉子	芝尾 航
		シングルハンド	法政大学	牟田口 駿	—
2010 年度	福岡市小戸 Y. H	470	慶応義塾大学	河合龍太郎	小川 晋平
		スナイプ	早稲田大学	古谷 信玄	井坂 智
2011 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	日本経済大学	土居 一斗	磯崎 哲哉
		スナイプ	鹿屋体育大学	鈴木 章央	久保 風太
		シングルハンド	—	—	—
2012 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	日本経済大学	土居 一斗	石井 佑典
		スナイプ	同志社大学	西村 秀樹	中川 健太
		シングルハンド	鹿屋体育大学	元津 大地	—
2013 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	関西学院大学	西尾 駿作	俣江／庄野
		スナイプ	関西学院大学	小栗 康弘	浅原／筒井
		シングルハンド	九州大学	橋元 隆	—
2014 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	早稲田大学	小泉 颯作	江畑 陽太
		スナイプ	日本大学	伊村 仁志	大野 雅貴
		シングルハンド	関東学院大学	北村 勇一朗	—
2015 年度	蒲郡市海陽 Y. H	470	関西学院大学	神木 聖	甲斐／光森
		スナイプ	同志社大学	山田剛士	北原 洋
		シングルハンド	専修大学	吉田慎一郎	—
2016 年度	新西宮 Y. H	470	同志社大学	渡辺 駿	三好／上野
		スナイプ	慶応義塾大学	細沼豪太	畠 広樹
		シングルハンド	関東学院大学	北村勇一朗	—

お客様とともに 前へ

一歩ずつ、まっすぐに。

明治商工は、安心な現場づくりの
パートナーを目指し進み続けます。



建設仮設資材
 明治商工株式会社

[本社] 〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1
東京流通センター センタービル3階
TEL 03-6404-4446 FAX 03-6404-4447
URL <http://www.meijishoko.com>

RunPlus
WATER



自分だけの スペシャル ドリンク

ランプラス ウォーター

Run Plus WATER



フレッシュなライム味の 専用シロップ付き

高濃度酸素ナノバブル+付属の専用シロップで、自分のスポーツスタイルに合わせたスペシャルドリンクに早変わり!消費された酸素と汗で失われたミネラル成分を同時に補給することができます。



シロップ入れる!派

20代 女性

水分補給をしながら、味を変えて気分もリフレッシュしたいな! ライム味って珍しい、飲んでて楽しい!



シロップ入れない!派

30代 女性

甘いと逆に喉が渇いちゃうし、私はミネラルウォーターとして飲もうかな! 酸素補給ってなんだか斬新。面白そう!!



気分によって変える!派

30代 男性

シロップは気分によって入れたいかな。なんにしても酸素補給が魅力的だね! 酸素なら大会でもドーピングにならないね(笑)

お問い合わせ：日建リース工業(株) 03-3295-9111

日建リース工業株式会社

私たちに風を作ることはできないけど
一生懸命がんばってる君たちがいるから
何もせずにはいられない。

海

は、青春の航跡。

 **日建・レンタコムグループ**

日建レンタコム株式会社・日建リース工業株式会社
株式会社レンタコム・日建片桐リース株式会社